

学校関係者評価結果（平成 28 年度最終）

香川県歯科医療専門学校

I 重点目標について

1 教育の質の向上

【自己】

年 2 回の教員相互授業参観週間を設け、授業力向上に努めるとともに、授業に新しい手法を取り入れるなど、工夫・改善に取り組んだ。また、保護者、学生、教職員アンケートを実施し、それぞれの意識を把握することで課題を見出し、学校改善に繋げる試みを行った。

【学校関係者】

・教員の授業力向上や授業改善への積極的な取組みがみられた。技術面の向上のため、実習の工夫や細やかな個別指導体制をお願いしたい。

2 国家試験合格率の維持・向上

【自己】

衛生士科では、早期から国試対策講座を実施し、弱点強化を図り、全員合格を目指して取り組んだ。技工士科では、全国模試受験や 3 県合同実技講習会に参加するなど、全国一斉国試に向けて様々な方策を講じた。技工士科は全国模試で成績上位に位置している。

【学校関係者】

- ・国家試験合格率 100% を目指し、早期からの国試対策強化がみられた。
- ・国試対策問題をしっかり行うことで学生の力がついた。

3 学生募集活動の強化

【自己】

歯科技工士、歯科衛生士の職業理解を第一に、ガイダンスやオープンキャンパス、ホームページ、広報に工夫を凝らして実施した。今年度は新たにTVコマーシャルを取り入れ広く本校のPRを行った。

推薦入試、一般一次試験の志願者、合格者は技工士科が定員を満たし、衛生士科も昨年より増加した。

【学校関係者】

・歯科技工士、歯科衛生士の認知度が上がったとは言え、まだまだ職業理解されていない点があるので、ガイダンスなどPRを今以上にお願いしたい。

・広報活動に工夫を凝らし、積極的な学生募集活動がみられた。

・学校の公式アカウント（SNS）を開設してはどうか。地元のフリーペーパーへの掲載も有効である。

4 教育環境の整備・改善

【自己】

昨年度末より外部カウンセラー制度を導入し、学生の心のケアや問題解決の拠りどころになった。勉強会等をとおして教員自身のカウンセリングマインドの向上にも寄与している。

教室、実習室の設備や環境は予算面で先送りになっている部分も多いが、少しずつ整備は進んでいる。

【学校関係者】

・外部カウンセラー制度の導入は効果的であった。

II 各評価項目について

1 教育理念・目的・育成人材像

【自己】

平成21年度に、それまでの教育方針3項目を、現在の「教育理念」と教育目標4項目に改訂した。今年度も改訂せず、そのまま踏襲している。創立50周年記念誌、記念碑にも理念を刻し、学内外への周知に努めた。

【学校関係者】

- ・在校生への周知もまだまだ必要かと思われる。

2 学校運営

【自己】規程は歯科医師会とも重なっており整備されているが、専門学校独自の組織規程やその運用について、明文化されていない部分がある。

校務のスリム化、効率化を図るため、外部講師の謝金支払システムは12月より電子化して運用を始めた。学生情報管理システムも見直しを行い、次年度運用を目指して準備を進めている。

【学校関係者】

- ・不備な部門は今後整備が必要だと思う。

3 教育活動

【自己】

技工士科においては、国家試験全国統一となり、今後単位制に移行することを見越して、カリキュラムを大幅に改訂した。衛生士科のカリキュラムについても、科目名等の見直しを行った。教員相互授業参観を実施し、授業改善を図った。また、課題の明確化と解決を図る目的で、保護者、学生、教職員アンケートを実施した。結果は、機関誌「歯科専通信」に掲載するとともに、ホームページでも公表する予定である。

【学校関係者】

- ・教員相互授業参観をこれからも実施し、授業改善、向上に努めてほしい。
- ・教員が研修会や学会に参加し、最新の歯科に関する知識や技術の習得を図り、教育内容に反映するなど、教育の質の向上に向けた取組みがみられた。
- ・アンケートの歯科専通信への掲載は良い。

4 学修成果

【自己】

衛生士科の国試合格率は、昨年度100%を達成できていないため、原因を明らかにするとともに、早期からの国試対策授業、模擬試験を繰り返すなど、強化を図った。

技工士科は全国統一国家試験に向けて、県外での講習など様々な強化策を講じた。

医療系の専門学校として、学生は職業意識を持って入学しているが、入学後、自己の適性に悩む学生が一部いて、面談や個別指導を行うなど継続的に指導した。

【学校関係者】

- ・ 国家試験の傾向に沿った問題集などがあれば取り入れてみてはどうか。
- ・ 国家試験の傾向や動向を分析し、更なる国試対策に取り組んでほしい。
- ・ 丁寧な個別指導で心強かった。

5 学習支援

【自己】

保護者会を充実させ、保護者全員の参加を呼びかけ、例年より多くの参加があった。学生の個別面談やカウンセリングなどを通じて、より丁寧できめ細かな指導に努めている。スクールカウンセラーの活用も機能している。

企業からの求人や学生からの就職の応募については支援体制が整っており、今年度も就職率100%を達成できる見通しである。

社会人入学生の受入れ体制は整備されていないが、教育訓練給付金制度の導入も検討段階に入っており、実施に向けて準備を始めた。

【学校関係者】

- ・ 学生の個別面談の実施や外部カウンセラーの導入等、学生のメンタルケア体制の充実を図り、効果もみられた。
- ・ スクールカウンセラーをこれからも活用してほしい。
- ・ これからは少子化が進行し、学生確保のためにも社会人入学生の受入れが重要であり、受入体制の整備は必要と考える。

6 教育環境

【自己】

衛生士科の、マネキンを使用するユニット設備は、一部完成した。(6階実習室)
視聴覚関係機材も、実習室のプロジェクタ設置を初め、順次整備が進んでいる。
衛生士科は、見学実習、臨地臨床実習をカリキュラムとして実施した。
技工士科は、見学実習を中心に校外学習を積極的に取り入れた。
防災関係では、地震、津波に備え今年度シェイクアウト訓練を実施した。

【学校関係者】

- ・臨地臨床実習は、実際の症例を通して、専門的な知識の広がりや技術の向上を図れる重要な実習であるため、学生の実践能力向上に向けて充実してほしい。
- ・シェイクアウト訓練は非常に良かった。

7 学生募集と受入れ

【自己】

高校訪問、高校内ガイダンス、会場形式進学相談会、体験学習を予算化し、積極的に活用して学生募集を行った。
推薦入試志願者の大半は、ガイダンスやオープンキャンパスの参加者である。
これまでの広報活動に加えて、今年度TVコマーシャルを取り入れPRに努めた。
「自己評価」「学校関係者評価」を完全実施し、文科省に「職業実践課程」の認定を受け
るべく準備を進めている。認定に加えて、経済的理由により就学困難な学生対象に授業料
減免制度を設けると、県の職業教育振興費補助金制度が利用できるようになる。
授業料減免制度の創設について、検討を行っているが実施には至っていない。

【学校関係者】

- ・県外（近県）の高校訪問も継続してほしい。
- ・広報誌「歯科専通信」を活用し、同窓生や歯科関係者にも学生募集をアピールしてほしい。
- ・授業料減免制度の創設について検討し、早期の実施に向けて頑張してほしい。
- ・授業料減免制度はぜひ実施してほしい。

8 財務

【自己】

公益社団法人の会立校として定期的に専門的な監査を受けており、財務の一部を公表している。

衛生士科入学者数は、昨年度定員を割り込み収入が減少した。一方で創立50周年記念事業で支出が増大し、他部門での経費節減が必要となった。

次年度については、各部門とも精査し今年度より抑えた予算を組んでいる。また、支出の軽減を図るべく、学校教職員の旅費支給に係る規定の一部改定を行った。

【学校関係者】

- ・財政管理は専門的な監査を受け、適正な会計が行われていると思われる。

9 法令等遵守

【自己】「学校評価」は昨年度より始まった。まだ方向性が定まっているとは言えず、課題も十分見えてこない。役割分担を行い、全職員が協力して軌道に乗せていきたい。

職業実践専門課程の認定を受ける条件として位置付けられている教育課程編成委員の選任の要件を満たしておらず、今年度の認定は見送りとなった。次年度認定を目指し、要件を満たす編成委員を新たに追加し、県当局に提出した。

【学校関係者】

- ・「学校評価」を軌道に乗せ、学校改善につながるよう職員全員で協議、協力して取組んでほしい。

10 社会貢献・地域貢献

【自己】

歯科医師会行事、県行事が数多くあり、職員・学生は積極的に参加した。また、学校の施設利用を可能な限り受け入れた。

歯と口の健康週間行事、歯みがき指導、臨地実習等に衛生士科学生が多数参加した。

技工士科は、地域清掃活動を年度当初に実施した。この活動を今後より広げていきたい。

【学校関係者】

- ・職員、学生の積極的な社会貢献・地域貢献がみられた。今後も継続してほしい。
- ・技工士科の地域清掃活動は広げる必要があるのか疑問である。

1 1 総括

【自己】

「学校評価」の形はできているが、具体的な学校改善活動につながっていない。今後の課題である。評価項目の絞り込みも必要である。

「自己評価」は○：できている（評価できる）、×：できていない（評価できない）の2段階で行うため、判断が難しい項目がある。今後、より具体的で数値化が可能な内容を評価項目として位置付けていきたい。

今年度、学校関係者評価に加えて、第三者評価委員会を立ち上げた。両者の棲み分けがきちんとできないまま、第2回目の委員会を実施した。本校の取り組むべき課題を明確にするとともに、両委員会の活用についても再検討していきたい。

【学校関係者】

- ・学校向上のため、両委員会を立ち上げたことが無駄にならないよう、今後も検討し、上手く活用してほしい。
- ・学校改善につながるよう、項目を数値化するなど、具体的な課題が見えてくるような項目設定が必要だと思われる。

III 学校評価他、本校の取組み全般について

【学校関係者】

- ・「学校評価」を通して、学校改善に向けての職員の具体的な取組みが分かった。今後は、「学校評価」を軌道に乗せ、全職員で学校改善に取り組んでほしい。
- ・技工士科、衛生士科ともに就職先がある程度決まっていると思うので、その歯科医院、技工所などから授業内容についてアンケートを取り、検討してもよい。